

学習計画（シラバス）の目的および活用法

1. 作成・発行の目的

将来の大きな夢や進路目標を抱いて川内高校に入学してきた諸君の、今年度の新たな学校生活がスタートしました。今まで培ってきたものを糧とした上で、過去の自分自身の進路意識や学習に対する取組を振り返り、新年度における目標と努力すべきことを再度真剣に考えて、決意新たに学習活動に取り組んで欲しいものです。

さて、3年間の高校生活を通して学習内容を本当に理解し身につけるためには、自主的な姿勢、「自ら学ぶ」姿勢が必要不可欠です。そのためにも、まず将来を見通した人生設計をし、具現化させるために何をすべきかを冷静に考えてみましょう。自ずと毎日の学習にも意義を見いだすことができ、自発的な取組にも繋がると思います。大切なことは、何事にも「前向き」であること、そして「継続する」ことです。以上のことを常に心に留めておけば、悩み・苦しみながらも、級友たちと共に貴重な高校生活を送ることができるはずです。そして高校3年間の最後の集大成とも言うべき“受験”という厳しい現実も、この心構えを実践することで、必ずや乗り越えられると思います。

この学習計画（シラバス）は、川内高校での学習内容を確認してもらうと同時に、今年度1年間を見通した学習活動計画をまとめたものです。以下の点に留意しながら、「自ら学ぶ」姿勢をもって、この1年を充実したものにして、自分の夢を実現して欲しいと心から期待します。

2. 内容・構成

- (1) 各学年の今年度分のシラバスが掲載されています。
- (2) 川内高校における3年間の学習の流れを見通すことができます。
- (3) 今年度の学習計画を、諸考査計画を含めて、1年間を見通して示してあります。
- (4) 各教科・科目の学習方法及び学習内容・到達目標等が詳細に記されており、自己評価もできます。

3. 効果的な活用法

この「学習計画（シラバス）」を活用して、自分の学習習慣を確立し、学力を向上させるため、次の点に留意しよう。

(1) 高校における学習の基本的な心構え

学習の基本的な心構えを認識し、今年1年間の学習活動につなげよう。

(2) 各教科・科目の学習計画・内容等

留意事項は以下の通り。

・[年間学習計画]

今年1年間の学習内容と流れをつかみ、学習や進路に対する自身の目標をしっかり意識しよう。

・[学習内容]

各教科・科目における具体的な学習内容を示してある。教科書を中心にしながら、副教材やプリントなど授業で学習する内容を事前に知ること、予習に役立てることができる。

・[学習方法・心構え]

学習を効果的に進めるためのポイント。我流の学習ではなく、その教科・科目の効果的な学習方法を身につけること。真摯な態度、地道な努力を継続することが、学力向上に繋がる。

・[到達目標]

必ず理解しなければならない具体的な事項を示してある。具体的な目標を意識して学習に取り組むことは、予習や復習の必要性を自覚することにもなり、学習内容を理解するために重要なことである。定期考査をはじめ、諸考査やテストは、この目標への到達度を測るために行われるのはいうまでもない。

・[自己評価]

上記の到達目標に対して、理解できたかどうか、具体的な項目について自分で評価してみよう。自分の学習状況を自己点検することは、考査前や模試の直前チェックにも役立つなど、向上心を一層高揚して学習意欲を高めることになる。

<授業が基本>

高校での勉強の中心は何と言っても授業である。毎日の授業を大切にし、教科書を完全にマスターすれば目的は必ずや達成される。授業をおろそかにして、我流の勉強をすることは時間の浪費でしかない。常に謙虚な気持ちを持ち、素直に先生方の指導に従おう。

(1) 高校の学習は予習が必須条件

小中学校時代から聞き慣れた「予習」の意義を再度考えてみよう。人は長時間の緊張にはなかなか耐えられないものである。本校では1日6～7時間の授業がある。予習の段階で、理解できる箇所と理解できない箇所、及び疑問点を明確にした上で授業に臨む習慣を身につけること。そうすることが結果的に時間の節約になると同時に、授業にも集中できる。教科書ガイドや友人のノートを写すといった楽な予習の愚かさを、理解できていない生徒はいないはずである。

「自力で問題を解決する力」は、日々の予習の習慣を通して身につけることができるものであり、一朝一夕にして成しうるものではない。予習の段階での疑問点をそのままにして授業に臨むのではなく、自分なりに精一杯考えること。現在の高校生に一番求められている部分である。

(2) 授業の受け方

上記の予習ができていれば、授業中は「どうしてだろう」という問題解決への積極的な姿勢で緊張感が張りつめているはずである。予習でも授業でも、理解できなかった箇所は教科担任に質問し、必ずその日のうちに解決するように努めよう。

(3) 復習について

確実な学力を身につけるための要件として「予習」・「授業」と同様に重要なのが「復習」である。

①暗記を必要としない学問は一つとしてない。とにかく、繰り返し覚えることである。

②「予習」・「授業」で理解したことが本当に身に付いているかどうか確認するために「練習問題」に当たって理解を深め、応用力の養成に努めよう。こうした自発的な学習が最も望ましい学習であり、真の学力を身につける一番の近道である。地道な努力無くして栄光はあり得ない。

<読書力と文章力の養成について>

教室で学ぶ知識事項は反復学習で確実に身につけなければならないが、それと同じくらい大切なことに「読書によって自分独自の教養世界」をつくることが挙げられる。大学入試では論文試験が主流になりつつある。様々なことについての知識を持つと同時に、自分なりの考えを表現する力・相手に伝える力が求められている。こうした力を身につけるために、本や新聞を読む時間を確保し、文章の要旨や自分なりの考えをまとめる習慣を身につけることが大切である。

新学習指導要領に基づく学習評価について

本校で目指す教育を明示した「鹿児島県立川内高等学校グランドデザイン」の理念に沿い、新学習要領に基づく学習評価として以下のような観点別評価を行います。

【観点別評価について】

各教科の教育活動については、シラバスにより大まかな流れ、各単元の学習計画により詳細を説明することになります。

(1) 観点別評価の目的

- 1 学習の進歩の状況や良い点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにする。
- 2 各教科・科目等の目標の実現に向けた学習状況を把握するために、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、場面や方法を工夫しながら学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上と資質・能力の育成を図る。

(2) 学習評価の方法

- ① 「知識・技能」②「思考・判断・表現」③「主体的に学習に取り組む態度」の3観点別に評価基準を定め、いずれも目標に準拠して、「A（十分満足できる）」、「B（概ね満足できる）」、「C（努力を要する）」の三段階で評価します。

観 点	評価のポイント	評価の材料
「知識・技能」	・各教科・科目における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況。 ・既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか。	定期考査・小テスト・振り返りシート等
「思考・判断・表現」	・各教科・科目の知識及び技能を活用して、課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているか。	定期考査・パフォーマンステスト・ワークシート・ノート・発表・報告等
「主体的に取り組む態度」	・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか。	授業や課題に取り組む姿勢・パフォーマンステスト・学習課題帳の提出等

【評定について】

評定については、高等学校学習指導要領に示す各教科・科目の目標に基づき定めた、当該教科・科目の目標や内容に照らして、その実現状況を総括的に次のように区分して評価します。

「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの……………	5
「十分満足できる」状況と判断されるもの……………	4
「おおむね満足できる」状況と判断されるもの……………	3
「努力を要する」状況と判断されるもの……………	2
「努力を要すると判断されるもののうち、より努力が必要」な状況と判断されるもの……	1



鹿児島県立川内高等学校グランドデザイン

教育目標

憲法及び教育基本法の精神を基に、「自律・敬愛・剛健」の校訓を人格形成の基本理念として、文武両道への取組を通して「知・徳・体」の調和がとれた、心豊かで、たくましく、国際的視野に立って主体的・創造的に生きる人間の育成を図る。

「確かな学力」「豊かな人間性」「変化の激しい未来を生きる力」の育成を目指す。

校訓

自律
敬愛
剛健

目指す生徒像

高い目標を掲げ、自らを律し、主体的に考え行動できる生徒
人間性豊かで、積極的に他者と協働し、社会貢献をしようとする生徒
気力・体力・活力に満ち、粘り強く自己実現を目指す生徒

育てたい資質・能力

自律

探究力（追求力）

思考力

実行力

敬愛

自己肯定感

多様な個性を尊重する態度

社会貢献

剛健

健康増進力

コミュニケーション力

俯瞰力

学校の取組

- 人権教育をすべての教育の基本とした「生きる力」を育成する教育活動の展開
- 学力の向上と進路実現のための、学びの先を見すえた指導の展開
- 主体的・対話的で深い学びの授業実践と社会の変化に対応した課題探究学習の推進
- 全職員の共通実践に基づいた生徒支援（心の教育、あいさつ・清掃・マナー指導等）の充実
- 心身の健全な育成のための体育指導、保健・安全指導の充実
- 部活動・生徒会活動・学校行事・ボランティア等への積極的取組の推奨、及び環境の整備
- ICT環境を含めた施設設備の整備、及びICT活用の推進
- 学校評価等を参考にした適切なカリキュラム・マネジメントの推進
- 地域・家庭等との連携の強化、及びニーズに対応した教育活動の実践
- 国際性や異文化理解力を育てるための国際交流プログラムの推進
- 魅力ある学校づくりやPR活動の推進及び中高連携の促進

生徒職員の重点取組
「発刺とした元氣
良い挨拶の励行」

地域・家庭等との連携

同窓会・PTAとの連携、自治体等からの支援、国際交流プログラム、大学からの出前授業、各中学校での里帰り報告、講演・講話、薩摩川内市みらいアドバイザー事業、地域行事への参加、川内大綱引綱練り等の各種ボランティア活動、地域イベントへの協力・参加、HPやブログによる情報発信 など

可愛地区コミュニティ
小中高共通実践事項
「あいさつ運動の実施」

科 目	現代の国語	学 年	1 年	単位数	2 単位
学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語的的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
〈教科書〉『高等学校現代の国語』（第一学習社） 〈副教材〉漢字問題集	・休日課題問題集 ・教材プリント類

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習する態度
評価の観点	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方・感じ方・考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしていけるとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
評価方法	定期考査・小テスト・振り返りシート等	定期考査・パフォーマンステスト・ワークシート・ノート・発表・報告等	授業や課題に取り組む姿勢・パフォーマンステスト・学習課題帳の提出等
★	探究力	思考力 コミュニケーション力	探究力 実行力

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学習内容等	付けたい力
1 学 期	4	・【評論】『生きもの』として生きる」中村桂子	・「対比」や「具体と抽象」等の論の展開を理解し、自分の考えを述べる上で役立てることができる。
	5	・【文学】「羅生門」芥川龍之介	
	6	・【評論】「水の東西」山崎正和	
	7	・【論理分析】『「間」の感覚」高階秀爾・「日本語は世界をこのように捉える」小浜逸郎 ・【言語活動】「意見文」	
2 学 期	9	・【評論】「無彩の色」港 千尋	・事実を基に意見を述べたり、テーマに対して推論したりする展開を理解し、自分の考えを述べる上で役立てることができる。
	10	・【文学】「夢十夜」 夏目漱石	
	11	・【評論】「現代の『世論操作』」林 香里	
	12	・【論理分析】『私作り』とプライバシー」坂本俊生・「A Iは哲学できるか」森岡正博 ・【言語活動】「意見文」	
3 学 期	1	・【評論】「不均等な時間」内山 節	・複数の意見や資料を読み取り、分析した上で自分の考えを持つ事ができる。
	2	・【評論】「ロビンソンの人間と自然」	
	3	・【実用文】読み比べ ・【言語活動】「合意形成のための話し合い」	

◇1年生で学ぶ国語の授業は、中学校の国語の続きと言ってよいが、扱う内容に対して、より深い理解が要求される。国語の時間が「聞くこと・読むこと・話すこと・書くこと」の四つの言語能力を高め、読解力や思考力・表現力を培う貴重な時間であることを認識すること。

◇予習や復習、宿題等にしつかりと取り組むこと。

◇忘れ物をせず、授業を真剣に受けること。

◇考査受験後、解けなかった問題は訂正し、確実に理解すること。

◇日頃から、新聞を読んだり読書をしたりして、様々な情報を取捨選択する能力を身に付け、語彙を増やしていくこと。

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	言語文化	学 年	1 年	単位数	3 単位
学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
〈教科書〉『高等学校 言語文化』（第一学習社） 〈副教材〉古文単語 古文文法 漢文句形	・休日課題問題集 ・教材プリント類

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習する態度
評価の観点	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
評価方法	定期考査・小テスト・振り返りシート等	定期考査・パフォーマンステスト・ワークシート・ノート・発表・報告等	授業や課題に取り組む姿勢・パフォーマンステスト・学習課題帳の提出等
★	探究力	思考力 コミュニケーション力	探究力 実行力

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学習内容等	付けたい力
1 学期	4	・【古文】「宇治拾遺物語」	・古文・漢文を読むための基礎知識を身に付け、平易な文章を読み解くことができる。
	5	・【漢文】「漢文入門」	
	6	・【古文】「伊勢物語」	
	7	・【漢文】「故事成語」 ・【言語活動】読み比べる	
2 学期	9	・【古文】「枕草子」	・随想や日記から、作者の考えや書かれた時代について理解できる。 ・やや長目の漢文を読み、内容や展開、主張を的確に捉えることができる。
	10	・【漢文】「史伝」	
	11	・【古文】「土佐日記」	
	12	・【漢文】「思想」 ・【言語活動】読み比べる	
3 学期	1	・【古文】「徒然草」	・思索的な文章で書かれた古文・漢文を読み、作者の考えを的確に捉える事ができる。 ・唐詩や和歌の表現や技法を理解し、鑑賞することができる。
	2	・【漢文】「文章」	
	3	・【古文】「平家物語」 ・【漢文】「唐詩」 ・【言語活動】和歌を現代の言葉で置き換える	

〈予習のしかた〉

①教科書をしっかりと読む。

②古文については、本文をノートに写し、古語辞典でわからない単語の意味を調べながら、自分なりの口語訳をする。

③漢文については、白文・書き下し文をノートに書き、漢和辞典でわからない単語の意味や句法を調べながら、自分なりの口語訳をする。

〈復習のしかた〉

①予習の時点でわからなかったところが、理解できたか確認する。

②授業で学んだ内容を再度確認する。

③教科書に出てきた内容と関連するいろいろな本を探して、発展的な読書を心がける。

④考査受験後、解けなかった問題は訂正し、確実に理解する。

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	地理総合	学 年	1 学年	単位数	2 単位
学習の 到達目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題等
(教)『高等学校 新地理総合』(帝国書院),『新詳高等地図』(帝国書院) (副)『高等学校 新地理総合ノート』(帝国書院) 『新編 地理資料 2023』(とうほう) ※授業中に補足プリントや資料等を適宜配布する。	(特に指定する教材はない) ※長期休業中の課題等については授業中に別途指示する

【目指す能力と評価について】

	目指す能力・評価の観点	主な評価方法
知識及び技能	①情報手段の特性や情報の正しさなどに留意しながら情報を正しく収集することができる。 ②収集した情報を全体の傾向性や取捨選択、複数の情報の関連性・共通性や創意性などに注意して読み取ることができる。 ③基礎的な情報、資料を基に自分の尺度で分類・整理し、他の人に分かりやすくまとめることができる。	a. 定期・実力考査 b. 単元ごとの評価課題 c. 課題やノート等の提出 d. まとめ作品や発表の内容
思考力・判断力・表現力	①一次情報を基にして思考を高めることができる。 ②すぐに解答できないこと、答えが存在しない問いに対して自らの知識や得られた情報を基に粘り強く思考することができる。 ③一般的な価値尺度に加え、自らの価値基準を用いて情報や事項の真偽を判断することができる。 ④自らの思考・判断の過程を適切な手段や表現方法で他人に分かりやすく伝えることができる。	a. 定期・実力考査 b. 単元ごとの評価課題 c. 課題やノート等の提出 d. 授業中の発表内容
主体的に学習する態度	①1つの情報だけに依拠せず、複数の情報を得て自らの思考や判断の材料を増やし、補強しようとしている。 ②与えられた情報のみにとどまらず、より広範な観点から課題解決に取り組もうとしている。 ③将来を担う一員としての自覚を持ち、地理的な見方・考え方を通した真偽や公正・正義などの判断尺度を持とうとしている。	a. 授業中の発表内容 b. 課題への取組・提出状況 c. 考査等への取組状況
川内高校グランドデザインとの関連	知識及び技能	思考力, 実行力
	思考力・判断力・表現力	思考力, コミュニケーション力, 自己肯定感
	主体的に学習する態度	実行力, 多様な個性を尊重する態度, 俯瞰力, 社会貢献

【学習内容】 ※月と配当時間は目安

	月	時間	指導内容・考查計画
1 学 期	4	4	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1 地球上の位置と時差 / 2 地図の役割と種類
	5	4	第2章 結び付きを深める現代世界 1 現代世界の国家と領域 / 2 グローバル化する世界
	67	1 0	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 1 世界の地形と人々の生活 1学期末考查
2 学 期	78	8	2 世界の気候と人々の生活 【事例選択学習】 ※教科書の第2部 第1章 第3～4節の中から選択して学習 (3 世界の言語・宗教と人々の生活 / 4 歴史的背景と人々の生活)
	9	2～3	■ 宗教…イスラームと人々の生活の関わり ―中央アジア・西アジア・北アフリカー
		2～3	■ 歴史…移民の歴史と人々の生活の関わり ―ラテンアメリカ 2学期中間考查
			※上記以外の事例（下記）も年度内に時間があれば取り扱う □自然；乾燥した大陸と太平洋の島々での生活 ―オセアニア □宗教；ヒンドゥー教と人々の生活の関わり ―インド □歴史；植民地支配の歴史と人々の生活の関わり ―サハラ以南アフリカー 国家体制の変化と人々の生活の関わり ―ロシア
	10	5	5 世界の産業と人々の生活
	11	4	第2章 地球的課題と国際協力 1 複雑に絡み合う地球的課題 / 2 地球環境問題 2学期末考查
3 学 期		5	3 資源・エネルギー問題 / 4 人口問題 / 5 食料問題
	1112	2	6 都市・居住問題 ※3学期へ継続
	1	2	6 都市・居住問題 第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1 日本の自然環境 / 2 地震・津波と防災 / 3 火山災害と防災
	1	3	4 気象災害と防災 学年末考查
	2	3	5 自然災害への備え
3 学 期		1	第2章 生活圏の調査と地域の展望 1 生活圏の調査と地域の展望
	3	6	

【学習上のアドバイス】

- ① 教材の忘れ物を絶対にしない。毎回の授業を大切にしましょう。課題の提出を指示された場合は、必ず記名して、切厳守で提出する。未提出や無断での遅延には厳しく対処します。
 - ② 授業での理解が第一です。授業があった日に家で「その日の授業内容が再現できるか」「他人に『こういう授業内容だったよ』と伝えられるか」ができていればOK。（予習→）授業→復習を徹底する。
 - ③ 長期休業中や考查前以外に特別な課題等を課すことはありませんが、②が徹底されず、定着が悪いと教科担当が判断した場合はその都度、個人・学級単位で特別課題を課すことがあります。この課題の取組・提出は評価に算入するものとします。
 - ④ 語句の丸暗記では考查や模試、共通テストに対応できません。暗記中心の学習ではなく、理解を中心とした学習の確立に努めましょう。
- ※ その他、疑問点等があれば教科担当に質問してください。

科 目	歴史総合	学 年	1 学年	単位数	2 単位
学習の 到達目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推察、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題等
(教)『現代の歴史総合 ～みる・読みとく・考える～』(山川出版社) (副)『現代の歴史総合 ノート』(山川出版社) (副)『新歴史総合 研究ノート』(啓隆社) ※授業中に適宜、補足プリント等を配布することがある	・小テスト等の実施 (その他授業時に指示あり) ＊長期休業中の課題等については別途指示する

【目指す能力と評価について】

	目指す能力・評価の観点	主な評価方法
知識及び技能	①近現代の歴史について、世界と其中的の日本の相互作用やそれぞれの独自性、共通性から過去と現在を考察することができる。 ②世界と其中的の日本に存する様々な現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解することができる。 ③情報を収集する技能、収集した情報を歴史的な見方・考え方を働かせて読み取る技能、読み取った情報を課題解決に向けてまとめる技能を身に付けることができる。	a. 定期・実力考査 b. 単元ごとの評価課題 c. 課題やノート等の提出 d. まとめ作品や発表の内容
思考力・判断力・表現力	①時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつなげるといった、社会的事象の歴史的な見方・考え方ができる。 ②概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。 ③考察、構想したことを論理的に説明する力、効果的に論述する力、他者の主張を踏まえて再構築しながら議論する力が持てる。	a. 定期・実力考査 b. 単元ごとの評価課題 c. 課題やノート等の提出 d. 授業中の発表内容
主体的に学習する態度	①歴史に関わる諸事象について、自らが関心をもって、多面的・多角的な考察や、深い理解を伴う学習に取り組もうとしている。 ②与えられた情報のみにとどまらず、より広範な観点から課題解決に取り組もうとしている。 ③日本の歴史への愛情や、他国や他国の文化を尊重する大切さを自覚し、国際社会の平和と発展に寄与する意識を持とうとしている。	a. 授業中の発表内容 b. 課題への取組・提出状況 c. 考査等への取組状況
川内高校グランドデザインとの関連	知識及び技能	思考力、実行力
	思考力・判断力・表現力	思考力、コミュニケーション力、自己肯定感
	主体的に学習する態度	実行力、多様な個性を尊重する態度、俯瞰力、社会貢献

【学習内容】

	月	時間	指導内容・考查計画
1 学 期	4	2	歴史の扉 ①歴史と私たち ②歴史の特質と資料
			第Ⅰ部 近代化と私たち
	4	4	第1章 結びつく世界と日本の開国
	5	9	第2章 国民国家と明治維新
	6	2	【テーマ学習】近代化と現代的な諸課題
		3	第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第3章 総力戦と社会運動 (「1 第一次世界大戦の展開」～「3 ヴェルサイユ体制とワシントン体制」)
		1	1 学 期 末 考 査
2 学 期	7	6	(「4 世界経済の変容」～「7 消費社会と大衆文化」)
	8	3	第4章 経済危機と第二次世界大戦
	9	5	(「1 世界恐慌の時代」～「5 第二次世界大戦化の社会」)
	10	1	2 学 期 中 間 考 査
		4	(「6 国際連合と国際経済体制」～「9 日本の独立と日米安全保障条約」)
		2	【テーマ学習】国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題
			第Ⅲ部 グローバル化と私たち
	11	8	第5章 冷戦と世界経済 (「1 冷戦下の地域紛争と脱植民地化」～「4 地域連携の形成と展開」)
	12	1	2 学 期 末 考 査
		3	(「5 計画経済とその波及」～「7 アジアの中の戦後日本」)
3 学 期	1	2	第6章 世界秩序の変容と日本
	2	5	(「1 石油危機」～「5 冷戦の終結とソ連の崩壊」)
		1	学 年 末 考 査
	3	5	(「6 現代の東アジア」～「10 現代と私たち」)
		2	【テーマ学習】現代的な諸課題の形成と展望

【学習上のアドバイス】

- ① 教材の忘れ物を絶対にしない。毎回の授業を大切にしましょう。課題の提出を指示された場合は、必ず記名して〆切厳守で提出する。未提出や無断での〆切遅れには厳しく対処します。
 - ② 授業での理解が第一です。授業があった日に家で「その日の授業内容が再現できるか」「他人に『こういう授業内容だったよ』と伝えられるか」ができていればOKです。また、予習は特に必要ありません。授業→復習を徹底する。
 - ③ 長期休業中や考查前以外に特別な課題等を課すことはありませんが、②が徹底されず、定着が悪いと教科担当が判断した場合はその都度、個人・学級単位で特別課題を課すことがあります。この課題の取組・提出は評価に算入するものとします。
 - ④ 語句の丸暗記では考查や模試、共通テストに対応できません。暗記中心の学習ではなく、理解を中心とした学習の確立に努めましょう。
- ※ その他、疑問点等があれば教科担当に質問してください。

【数学科 3カ年学習計画】

時期		1 学期				夏季休業	2 学期				冬季休業	3 学期		
行事・考査等		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月		1 月	2 月	3 月
		実力考査	実力考査		期末考査		実力考査	中間考査	学びの基礎診断	期末考査		実力考査	学年末考査	
学習内容・学習項目	1 年		【数学Ⅰ】 ①数と式 ②集合と命題 ③2次関数 ④データの分析				【数学Ⅰ】 ⑦図形と計量 【数学A】 ⑤場合の数と確率 ⑥図形の性質				【数学Ⅱ】 ⑨式と証明 ⑩複素数と方程式 【数学A】 ⑧数学と人間の活動			
	2 年	文系	【数学Ⅱ】 ①図形と方程式 ②指数関数と対数関数 ③三角関数				【数学Ⅱ】 ④微分法と積分法 【数学B】 ⑤数列 ⑥統計				【数学C】 ⑦ベクトル 【数学ⅠⅡAB】 問題演習・記述対策			
		理系	【数学Ⅱ】 ①図形と方程式 ②三角関数 ③指数関数と対数関数 ⑤微分法				【数学Ⅱ】 ⑥積分法 【数学B】 ⑦数列 ⑧統計 【数学C】 ⑨ベクトル				【数学Ⅲ】 ⑩極限 ⑪微分法			
	3 年	文系	【数学ⅠⅡAB】 問題演習・記述対策				【問題演習】 記述対策＋大学入試共通テスト対策				大学入学共通テスト対策＋個別試験対策			
		理系	【数学Ⅲ】 ①積分法 【数学C】 ②平面上の曲線と複素数平面 ③問題演習・記述対策				【問題演習】 記述中心，12月から大学入学共通テスト対策				大学入学共通テスト対策＋個別試験対策			
	備考													

科 目	数学Ⅰ	学 年	1 年	単位数	3 単位
学習の到達目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
「高等学校 数学Ⅰ」（数研出版）	「類比問題集ⅠA」 ※参考書は、入学後決定

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習する態度
評価の観点	- 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 - 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	- 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 - 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
評価方法	小テスト 定期考査	小テスト 定期考査 ワークシート（レポート）	ノート ワークシート 振り返りシート 授業態度
★	探究力(追求力)	思考力・俯瞰力・コミュニケーション力	実行力・自己肯定感

【学習内容】

【アドバイス】

学期	学 習 内 容 等	主な考査
1 学期	第1章 式と計算 第2章 集合と命題 第3章 2次関数 第5章 データの分析	学びの基礎診断 第2回実力考査（中間考査） 1学期期末考査 第3回実力考査
2 学期	第4章 図形と計算	2学期中間考査 学びの基礎診断 2学期期末考査
3 学期		第5回実力考査 学年末考査

・基礎作りの大切な時期である。予習・復習を欠かさず、授業に全力で集中する。

・自分の頭で考え、自分の力で解く姿勢をもち、積極的な学習習慣を身につける。

・自宅での学習は少なくとも1時間以上確保すること。

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	数学Ⅱ	学 年	1 年	単位数	1 単位
学習の到達目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) いろいろな式の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
「高等学校 数学Ⅱ」（数研出版）	※参考書は、入学後決定

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習する態度
評価の観点	- いろいろな式の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 - 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	- 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 - 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
評価方法	小テスト 定期考査	小テスト 定期考査 ワークシート（レポート）	ノート ワークシート 振り返りシート 授業態度
★	探究力(追求力)	思考力・俯瞰力・コミュニケーション力	実行力・自己肯定感

【学習内容】

【アドバイス】

学期	学 習 内 容 等	主な考査
1 学期		学びの基礎診断 第2回実力考査（中間考査） 1 学期期末考査 第3回実力考査
2 学期		2 学期中間考査 学びの基礎診断 2 学期期末考査
3 学期	第1章 式と証明 第2章 複素数と方程式	第5回実力考査 学年末考査

・基礎作りの大切な時期である。予習・復習を欠かさず、授業に全力で集中する。

・自分の頭で考え、自分の力で解く姿勢をもち、積極的な学習習慣を身につける。

・自宅での学習は少なくとも1時間以上確保すること。

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	数学A	学 年	1 年	単位数	1 単位
学習の到達目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
「高等学校 数学A」(数研出版)	「類比問題集ⅠA」 ※参考書は、入学後決定

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習する態度
評価の観点	- 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 - 数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 - 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付けている。	- 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 - 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
評価方法	小テスト 定期考査	小テスト 定期考査 ワークシート (レポート)	ノート ワークシート 振り返りシート 授業態度
★	探究力(追求力)	思考力・俯瞰力・コミュニケーション力	実行力・自己肯定感

【学習内容】

【アドバイス】

学期	学 習 内 容 等	主な考査
1 学期	第 1 章 場合の数と確率 第 2 章 図形の性質 第 3 章 数学と人間の活動	学びの基礎診断 第 2 回実力考査 (中間考査) 1 学期期末考査 第 3 回実力考査
2 学期		2 学期中間考査 学びの基礎診断 2 学期期末考査
3 学期		第 5 回実力考査 学年末考査

・基礎作りの大切な時期である。予習・復習を欠かさず、授業に全力で集中する。

・自分の頭で考え、自分の力で解く姿勢をもち、積極的な学習習慣を身につける。

・自宅での学習は少なくとも 1 時間以上確保すること。

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	科学と人間生活	学 年	1 年	単位数	2 単位
学習の到達目標	自然と人間生活との関わり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを見通しをもって行うことなどを通して理解し、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
科人 702 「科学と人間生活」 実教出版 「科学と人間生活エブリィノート 授業のまとめ」 実教出版 「アクセスノート科学と人間生活」 実教出版	

【目指す能力と評価について】 ★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習する態度
評価の観点	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活とのかかわりについて理解を深めるとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	人間生活と関連のある自然の事物や現象の中に問題を見出し、見通しをもって実験・観察・調査などを行うとともに、ものごとを実証的・論理的に考察したり分析したりすることにより、総合的に判断し、それを表現することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度が養われている。 自然の原理・法則や科学技術の発展と人間生活との関わりについて社会が発展するための基盤となる科学に対する興味・関心を高めている。
評価方法	授業態度、課題提出、定期考査、発問評価、小テスト		
★	探求力(追求力))	思考力, 実行力	コミュニケーション力, 実行力

【学習内容】

学期	月	学習内容	評価の観点			評価規準(評価方法)	学習到達度				
			知	思	態		※自己評価				
							1	2	3	4	5
第1学期	4	1章 科学と技術の発展			○	・科学の発展の歴史に興味をもち、人間生活を支える技術が科学とどのように関わり合って発展してきたか、意欲的に学習しようとする。(授業態度)					
		1.科学と技術の始まり									
		2.海			○	・現代の科学技術について歴史的な経緯を踏まえ、人間と科学技術の関係における問題点を考えて、将来に向けての展望を持つとともに、それを表現することができる。(発問評価)					
		—とくに深海を科学の眼で見よう—			○						
		3.土			○	・海洋について進められている研究・開発の概要を理解し、日本における海洋研究の意義や役割を考察することができる。(課題提出)					
	4	—農業を通して考える—			○	・農業における微生物の役割や、化学肥料の開発における尿素的合成など、科学技術の発展に観察、実験が果たした役割についてまとめることができる。(課題提出)					
					○	・科学技術はさまざまな努力によって築き上げられたものであることを理解している。また、科学技術は人間生活を豊かにする、使い方を誤ると人類の将来だけでなく地球全体にも大きな影響を及ぼすことを理解している。(定期考査)					
		2章 物質の科学				・私たちの生活に役立っている金属・プラスチック・セラミックスについて、どのような性質が製品として利用されているかを学び、さらによりよい生活のために改良すべき点はないか意欲的に学習しようとする。(授業態度)					
		1 節 材料とその再利用			○						
		1.生活の中のさまざまな物質			○	・天然にある素材と人工的に作り出した素材が日常生活の中でどのように使われているかを考え、表現することができる。(発問評価)					
	5	2. 金属				・原子の構造、化学結合について理解しており、物質の性質と関係していることを理解している。(定期考査)					
		3. プラスチック			○						

第2学期	4. セラミック 特集 リサイクル			○	・身近にある金属・プラスチック・セラミックスの種類、性質に関して簡単にできる観察・実験(加熱・溶解など)の技能を習得し、その結果を的確にまとめ、構造や成分の違いに関して考察することができる。(課題提出)				
			○		・身の回りの金属・プラスチック・セラミックスについてその製造法や資源の再利用について理解している。(定期考査)				
			○		・それぞれの材料の特徴を把握し、安全で快適な生活のための利用法を理解している。(定期考査)				
	3 章 生命の科学 1 節 ヒトの生命現象 特集 生物としてのヒト 1. 私たちの生活環境と眼 2. ヒトの生命活動と健康の維持 3. ヒトの生命現象とDNA			○	・ヒトの生命現象と生活との関連に興味・関心をもち、意欲的に学習しようとしている。(授業態度)				
			○	○	・眼の構造と働きについて理解しており、観察・実験の結果や考察を自分の言葉で表現することができる。(課題提出)				
				○	・眼で受容した光の情報が脳で処理されることによって視覚が生じることにについて、錯視の実験を通して説明することができる。				
				○	・血糖濃度やホルモンの分泌量の変化のグラフを読み取り、ホルモンによる血糖濃度の調節について考察することができる。(課題提出)				
			○		・抗体による免疫の概要を理解し、予防接種の意義を説明することができる。(定期考査)				
			○		・DNA における塩基の相補性を理解するとともに、DNA の塩基配列によってつくられるタンパク質のアミノ酸配列が決まることを理解している。(定期考査)				
	4 章 光や熱の科学 1 節 熱の性質とその利用 1. 熱 2. 熱の発生 3. エネルギーの変換と利用 特集 地球温暖化と身近な科学技術			○	・自然界に見られる熱に関する現象に関心を持ち、意欲的に調べようとする。(授業態度)				
				○	・エネルギーに関する科学技術に関心を持ち、科学的な見方・考え方を身につけようとする。(授業態度)				
				○	・身の回りにある熱に関わる現象を見出し、熱の性質から科学的に思考し、熱を有効利用できるような判断ができる。(発問評価)				
			○		・熱と温度とを区別でき、熱の性質をこれに関わる現象や研究から理解し、日常生活に適切に利用できる。(定期考査)				
				○	・人間生活の中に、エネルギーに関する科学技術を見出すことができ、エネルギーが有効に利用されているかを総合的に判断して表現することができる。(発問評価)				
			○	○	・熱量の保存や熱を、仕事や電流によって発生させる観察・実験の技能を習得し、その過程や結果を適切に表現できる。(課題提出)				
			○	○	・発熱・吸熱反応や力学的エネルギーの変換などに関する観察・実験の方法・技能を習得し、結果や考察を的確に表現できる。(課題提出)				
				○	・エネルギーの変換や、保存について理解している。また、その性質を利用して科学技術が発展したことを理解している。(定期考査)				
第3学期	5 章 宇宙や地球の科学			○	・身近な自然景観や自然災害に関心を持ち、意欲的に調べようとする。(授業態度)				
	1 2 節 身近な自然景観と自然災害			○	・自然景観の成因や自然災害の起こる原因(要因)を理解し、災害リスクを減らすための、科学的な見方・考え方を身につけようとする。(授業態度)				
	1. 身近な景観のなりたち		○	○	・身近な自然景観を適切に観察し、結果や考察を的確に表現できる。(課題提出)				

3	2. 地球内部のエネルギー		○	・身近な自然景観の成因，日本列島の成り立ちを科学的に分析して，総合的に判断し，それを表現することができる。（発問評価）				
	3. 自然の恵みと自然災害		○	・自然災害の起きる原因や条件を理解し，災害リスクを減らすための方法について総合的に判断し，それを表現することができる。（発問評価）				
	特集 地場産業と地学	○	○	・地震や火山のハザードマップなどを調査検討し，災害リスクを的確に表現できる。（課題提出）				
	特集 防災	○	○	・自然景観の成因や日本列島の成り立ちとその変化について理解し，自然景観の恩恵と自然災害のリスクを説明できる。 (定期考査)				
	6 章 これからの科学と人間生活 (課題研究等)		○	・科学と人間生活の間に現在生まれている新しい課題に関心を持ち，具体例を考え，研究しようとする。（授業態度）				
			○	・科学と人間生活に関する課題について具体例をあげ，その課題の研究を通して今後の科学研究や人間生活のあり方について考え，それを表現することができる。（課題提出）				
		○	○	・課題選択と研究方法の独創性や計画性，参考資料の使用や研究準備の適切さ，実験・調査・観察の技能や記録の正確さ，レポートの表現のわかりやすさ，課題とその結果にふさわしい発表の工夫(表・グラフ・コンピュータの使用)ができる。（課題提出）				
		○		・課題研究から明らかにされた結果や関連する事項を理解できる。（課題提出）				

学習到達度 ※（生徒）自己評価の例

①全くできなかった ②できなかった ③どちらともいえない ④良くてできた ⑤とても良くてできた

令和5年度保健体育科年間指導計画表

学年	科目	学期	1 学期												2 学期												3 学期												合計 時間数	
		月	4			5			6			7			9				10				11				12				1			2			3			
		週数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35			
1 年	体育	3 単位	体づくり (18) 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画			選択Ⅰ (21) 陸上競技・水泳 ハードル走・クロール・平泳ぎ						体育理論 (3)	選択Ⅱ (12) 球技 ソフトボール バレーボール				陸上競技(12) 長距離走				選択Ⅱ (12) 球技 ソフトボール バレーボール				体育理論 (3)	選択Ⅲ (24) 球技・武道 バスケットボール・サッカー・柔道・剣道									105					
	保健	1 単位	1単元 現代社会と健康 2単元 安全な社会生活																																			35		
2 年	体育	3 単位	体づくり運動 (12) 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画			選択Ⅰ (27) 球技 バスケットボール・ソフトボール 卓球・ソフトテニス						体育理論 (3)	選択Ⅱ (12) 球技 ソフトボール バレーボール バドミントン				陸上競技(12) 長距離走 短距離走				選択Ⅱ (12) 球技 ソフトボール バレーボール バドミントン				体育理論 (3)	選択Ⅲ (24) 球技 バレーボール・サッカー・バドミントン									105					
	保健	1 単位	1単元 生涯を通じる健康 2単元 健康を支える環境づくり																																			35		
3 年	体育	2 単位	体づくり運動 (7) 体ほぐしの運動			選択Ⅰ (18) 球技 バスケットボール・バドミントン 卓球・ソフトテニス・ソフトボール						選択Ⅱ (7) 球技 ※1 卓球 バドミントン		陸上競技 (8) 長距離走・短距離走				選択Ⅱ (9) 球技 体育理論 (3)				※2ソフトテニス サッカー バレーボール				体づくり運動 (15) 実生活に生かす運動の計画									70					
学校行事			入学式・始業式 新体力テスト 地区総体 県総体 文化祭 期末考査 クラスマッチ 体育祭 強歩大会 修学旅行 学年末考査 心肺蘇生法実習 卒業式 クラスマッチ・終業式																																					

1 年 年間学習指導計画（学習内容・到達目標）

教科	保健体育	科目	体育	単位数	3 単位	対象学年	1 年
【到達目標】 1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能も高める。 2) 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。 3) 自己の体力向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などの意識を高め、健康安全を確保し、生涯豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。 4) 武道では、伝統的な行動の仕方が重視されることを理解し、相手の動きに対応した攻防ができるようになる。					【知識及び技能】 運動の合理的計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともにそれらの技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするための課題を発見し、合理的計画的な解決に向けて思考判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養っている。		
【学習方法・心構え】 1) 運動に主体的に取り組み、ルールやマナーを大切にする。 2) 各運動で、記録の向上や競争の喜びを味わい、各種目の技能を高める。 3) 運動の方法、体力の高め方、課題解決の方法などを理解する。 4) 柔道・剣道は、相手との攻防の仕方、試合の仕方を学ぶと共に、相手を尊重し、礼儀正しく活動すること。 5) ルールを理解し、試合はもちろんのこと審判ができるレベルにまでなること。					【学びに向かう力、人間性等】 運動における競争や協働の経験を通して公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養っている。		

1年 保健 年間学習計画

項目名		時間の 目安	学習のねらい	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
保健編 1単元 現代社会と健康						
1	健康の考え方と成り立ち	3	・さまざまな健康の考え方について例をあげて説明できる。 ・健康を成り立たせている要因について例をあげて説明できる。	・我が国の死亡率、受療率、平均寿命、健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して国民の健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康水準、及び疾病構造の変化には、科学技術の発達、及び生活様式や労働形態を含む社会の状況が関わっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
2	私たちの健康のすがた		・わが国の健康水準の変化とその背景について説明できる。 ・わが国の現在の健康問題について例をあげて説明できる。	・健康水準の向上、疾病構造の変化に伴い、個人や集団の健康についての考え方も変化してきていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・免疫、遺伝、生活行動などの主体要因と、自然、経済、文化、保健・医療サービスなどの環境要因が互いに影響し合いながら健康の成立に関わっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・国民の健康課題について、我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し、生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理している。 ・健康の考え方について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
3	生活習慣病の予防と回復	9	・生活習慣病の種類と要因について説明できる。 ・生活習慣病の一次予防、二次予防について例	・がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を送ることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・がんは、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・生活習慣病などの予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。 ・生活習慣病などの予防と回復について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	生活習慣病とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
4	がんの原因と予防		・がんの種類や原因について説明できる。 ・がんの一次予防と二次予防について例をあげて説明できる。			
5	がんの治療と回復		・がんのおもな治療法や緩和ケアについて説明できる。 ・がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について説明できる。			
6	運動と健康		・健康と運動の関係について説明できる。 ・目的に応じた健康的な運動のしかたについて例をあげて説明できる。			
7	食事と健康		・食事と健康の関係について説明できる。 ・健康的な食事のとり方について説明できる。			
8	休養・睡眠と健康		・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について説明できる。 ・健康と睡眠の関係及び健康により睡眠のとり方について説明できる。			
9	喫煙と健康	4	・喫煙者やその周囲の人に起こる害について説明できる。 ・喫煙対策について、個人と社会に分けて例をあげて説明できる。	・喫煙や飲酒は、生活習慣病などの要因となり心身の健康を損ねること、喫煙や飲酒による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観の育成などの個人への働きかけ、及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・コカイン、MDMAなどの麻薬、覚醒剤、大麻、など、薬物の乱用は、心身の健康、社会の安全などに対して深刻な影響を及ぼすことから、決して行ってはならないことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・薬物乱用を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観や規範意識の育成などの個人への働きかけ、及び法的な規制や行政的な対応など社会環境への対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして、防止策を評価している。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	喫煙、飲酒、薬物乱用について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
10	飲酒と健康		・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響を説明できる。 ・飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について例をあげて説明できる。			
11	薬物乱用と健康		・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について説明できる。 ・薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策例をあげることができる。			

12	精神疾患の特徴		・精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について説明できる。 ・現代社会における精神保健の課題をあげることができる。	・精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調により、精神活動が不全になった状態であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・うつ病、統合失調症、不安症、摂食障害などは、誰もが罹患すること、若年で発症する疾患が多いこと、適切な対処により回復し生活の質の向上が可能であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・精神疾患の予防と回復には、身体 の健康と同じく、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた生活を実践すること、早期に心身の不調に気付くこと、心身に起こった反応については体ほぐしの運動などのリラクセーションの方法でストレスを緩和することなどが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・心身の不調時には、不安、抑うつ、焦燥、不眠などの精神活動の変化が、通常時より強く、持続的に生じること、心身の不調の早期発見と治療や支援の早期の開始によって回復可能性が高まることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・人々が精神疾患について正しく理解するとともに、専門家への相談や早期の治療などを受けやすい社会環境を整えることが重要であること、偏見や差別の対象ではないことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・精神疾患の予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・精神疾患の予防と回復について、習得した知識を基に、心身の健康を保ち、不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。 ・精神疾患の予防と回復について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	精神疾患の予防とその回復について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
13	精神疾患の予防	4	・精神疾患を予防する方法について説明できる。 ・精神疾患の早期発見のために必要なことについて説明できる。				
14	精神疾患からの回復		・精神疾患の治療について例をあげて説明できる。 ・精神疾患の適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要か説明できる。				
15	現代の感染症	4	・感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて説明できる。 ・新興感染症と再興感染症が流行する要因をそれぞれ説明できる。	・感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られること、その際、交通網の発達により短時間で広がりやすくなっていること、また、新たな病原体の出現、感染症に対する社会の意識の変化等によって、腸管出血性大腸菌（O 157 等）感染症、結核などの新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・感染症のリスクを軽減し予防するには、衛生的な環境の整備や検疫、正しい情報の発信、予防接種の普及など社会的な対策とともに、それらを前提とした個人の取組が必要であること、エイズ及び性感染症についても、その原因、及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について、理解したことを言ったり書いたりしている。	・現代の感染症とその予防について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられることについて、事例を通して整理し、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用している。 ・現代の感染症とその予防について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	現代の感染症とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
16	感染症の予防			・感染症の予防対策について3原則から例をあげて説明できる。 ・感染症への個人と社会の対策について例をあげて説明できる。			
17	性感染症・エイズとその予防			・性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について説明できる。 ・性感染症・エイズの予防とその対策について個人と社会に分けて例をあげることができる。			
18	健康に関する意思決定・行動選択	3	・意思決定・行動選択に影響を与える要因について説明できる。 ・健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について例をあげて説明できる。	・健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づき、適切な意思決定や行動選択により、疾病等のリスクを軽減することを含め、自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに、環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・適切な意思決定や行動選択には、個人の知識、価値観、心理状態、及び人間関係などを含む社会環境が関連していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康を保持増進するための環境には、自然環境、及び政策や制度、地域活動などの様々な社会環境があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・国民の健康課題について、我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し、生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理している。 ・健康の考え方について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
19	健康に関する環境づくり			・社会環境の健康への影響について例をあげて説明できる。 ・ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について説明できる。			
保健編 2単元 安全な社会生活							
1	事故の現状と発生要因	4	・事故の実態と被害の実態について説明できる。 ・事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることについて例をあげて説明できる。	・事故は、地域、職場、家庭、学校など様々な場面において発生していること、事故の発生には、周りの状況の把握及び判断、行動や心理などの人的要因、気象条件、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・安全な社会づくりについて、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・安全な社会づくりについて、様々な事故や災害の事例から、安全に関する情報を整理し、環境の整備に応用している。 ・交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価している。 ・安全な社会づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	安全な社会づくりについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
2	安全な社会の形成			・安全のために必要な個人の行動について例をあげて説明できる。 ・すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について例をあげて説明できる。	・事故を防止したり事故の発生に伴う傷害等を軽減したりすることを目指す安全な社会の形成には、交通安全、防災、防犯などを取り上げて、法的な整備などの環境の整備、環境や状況に応じた適切な行動などの個人の取組、及び地域の連携などが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・交通事故を防止するには、自他の生命を尊重するとともに、自分自身の心身の状態や周りの環境、車両の特性などを把握すること、及び個人の適切な行動、交通環境の整備が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
3	交通における安全			・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について例をあげて説明できる。 ・交通事故における責任を3つに分けて説明できる。			
4	応急手当の意義とその基本	4	・応急手当の意義について説明できる。 ・傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントをあげることができる。	・適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、自ら進んで行う態度が必要であること、さらに、社会の救急体制の整備を進めること、救急体制を適切に利用することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・応急手当について、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用している。 ・応急手当について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	応急手当について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
5	日常的な応急手当			・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について説明できる。 ・実際に、日常的なけがや熱中症の応急手当ができる。	・日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることを、実習を通して理解し、応急手当ができるようにする。		
6	心肺蘇生法			・心肺蘇生法の方法と手順について説明できる。 ・実際に、心肺蘇生法をおこなうことができる。	・心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）の使用などが必要であること、及び方法や手順について、実習を通して理解したことを言ったり書いたりし、AED などを用いて心肺蘇生法ができる。		

科 目	音 楽 I	学 年	1 年	単位数	2 単位
学習の到達目標	(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。				

【使用教材】

教科書・副教材
教育芸術社『MOUSA 1』 九州高等学校音楽教育研究会編『MUSIC NOTE』 ヤマハ音楽振興会『Classic Guitar Course Vol.1』

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習する態度
評価の観点	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価方法	授業や課題への取り組み 提出物の内容 実技試験		
★	探求力・多様な個性を尊重する態度・コミュニケーション力・実行力	探求力・思考力・実行力	探求力・思考力・実行力・俯瞰力・コミュニケーション力

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学習内容等	
1 学期	4	【歌唱】校歌, イタリア歌曲	・定期考査を実施しない為、授業での取り組みや、提出物・実技試験等が評価の基準となる。積極的に活動に取り組むこと。
	5	【器楽】ギター基本奏法, コード	
	6	【鑑賞】西洋音楽の流れ	
	7		
2 学期	9	【歌唱】日本歌曲, オペラの世界	
	10	【器楽】ヴァイオリンに親しむ	
	11	【創作】リズム, 旋律等	
	12	【鑑賞】オペラ《カルメン》	
3 学期	1	【歌唱】合唱, ヴォイス・アンサンブル	
	2	【器楽】アンサンブル(器楽・リズム等)	
	3	【鑑賞】日本の伝統音楽(雅楽, 能, 文楽, 歌舞伎)	
			※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	美術 I	学 年	1 年	単位数	2 単位
学習の到達目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識を持って美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。 (3)主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				

【使用教材】

教科書・副教材
美術 1 (光村図書)

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習する態度
評価の観点	- 造形の要素の働きを理解している。 - 造形的な特徴を基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 - 意図に応じて表現方法を創意工夫し、主題を追究して創造的に表している。	- 造形的なよさや美しさを感じ取り考えたこと、夢や想像などから主題を生成している。 - 表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の工夫を練っている。 - 美術の働きについて考え、見方や感じ方を深めている。	- 主体的に絵画・彫刻の表現の創造活動に取り組もうとしている。 - 主体的に作品や美術文化の鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価方法	- 授業や課題の取り組み・ルーブリック評価表を使った自己評価 - 課題作品の提出 - 基礎的課題作品・アイディアスケッチ - 鑑賞活動		
★	探究力・実行力・俯瞰力	思考力・自己肯定感・コミュニケーション力	探究力・多様な個性を尊重する態度 実行力

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学習内容等	
1 学期	4	- オリエンテーション 【デザイン】色彩研究・スケッチブック表紙デザイン	定期考査を実施しないため、授業での制作活動や課題提出等が評価の基準となる。積極的に活動に取り組むこと。 (進度に不安がある場合、放課後等を活用し、制作してもよい)
	5		
	6	【デザイン】「私の好きなこと」ポスター	
	7	【鑑賞】油彩の魅力～西洋絵画史～ 【絵画】名画の模写～油彩に慣れ親しむ～	
2 学期	8		
	9	【絵画】名画の模写～油彩に慣れ親しむ～	
	10		
	11		
3 学期	12	【鑑賞】彫刻の魅力～西洋彫刻史～	
	1	【彫刻】生き活きとしたいきもの(塑像)	
	2		
	3	美術 I まとめ	

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	書 道 I	学 年	1 年	単位数	2 単位
学習の到達目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
書 I (光村図書)	

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習する態度
評価の観点	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけている。	書のよさを直感的に受け止め、意図に基づいて作品を構想し表現を工夫したりして、試行錯誤しながら作品を完成している。また古典や現代における様々な表現等そのよさや美しさを分析的に捉えたり、感じ取ったことを言葉で表現することで、書的美を味わおうとしている。	主体的に書の表現や鑑賞の活動に取り組み、その楽しさや価値を実感し、これまで伝えられてきた書の伝統と文化について理解しようとしている。
評価方法	・授業や課題の取り組み ・提出作品 ・ワークシート等の記入状況 ・鑑賞活動		
	探求力・思考力・実行力	探求力・思考力・コミュニケーション力	探求力・実行力・多様な個性を尊重する態度

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学習内容等	
1 学期	4	校歌を書く（中学校書写の振り返り）	・定期考査を実施しないため、作品提出や授業の取り組み状況等が評価の基準になる。積極的に取り組むこと。
	5	篆書、篆刻（白文印）	
	6	漢字の書	
	7	楷書 (唐の四大家, 他)	
2 学期	9	漢字仮名交じりの書（硬筆）	
	10	漢字の書	
	11	行書	
	12	(蘭亭序, 他) 隸書 (曹全碑)	
3 学期	1	仮名の書	
	2	(いろはうた, 他)	
	3	漢字仮名交じりの書 表具	

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	英語コミュニケーションⅠ	学 年	1 年	単位数	4 単位
学習の到達目標	(1) 聞くこと ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。 イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 (2) 読むこと ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を書き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 (3) 話すこと[やり取り] ア 日常的な話題について、使用される語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。 (4) 話すこと[発表] ア 日常的話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。 (5) 書くこと ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
『Heartening English Communication I』（桐原書店）	〈入学後、別途指示します。〉

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習する態度
評価の観点	英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて日常的話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。	英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	a. 授業や課題に取り組む姿勢 b. パフォーマンステスト c. 課題、ノート等の提出 d. 小テスト・各レッスンの評価問題・定期考査		
★	探究力	思考力・コミュニケーション力	実行力・俯瞰力

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学習内容等	主な考査
1 学期	4 5 6 7	Lesson 1 Bringing Out the Best in Himself Lesson 2 Hold on, Anzu! Lesson 3 We Can Make a Difference	学びの基礎診断 第2回実力考査(中間考査) 1学期末考査
2 学期	9 10 11 12	Lesson 4 Creative Problem Solving Lesson 5 Canned Bread to Feed the World Lesson 6 Could We Have a Real Jurassic Park? Lesson 7 Behind the Price Tag	第3回実力考査 2学期中間考査 学びの基礎診断 2学期末考査
3 学期	1 2 3	Lesson 8 The World's Winter Festivals Lesson 9 Talking Trees Lesson 10 Capturing the Reality of the World	第5回実力考査 学年末考査

- ・英語学習法（自学自習の体制）を確立する。
- ・毎日、最低1～2時間程度の学習時間を確保し、可能な限り多くの英文を読んだり、聞いたりする。
- ・最初から辞書を使うのではなく、まず読む、聞く。その後、確認のために辞書を引く。
- ・授業で疑問点を解決し、授業後に復習・習得。

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	論理・表現Ⅰ	学 年	1 年	単位数	2 単位
学習の到達目標	(1) 話すこと[やり取り] ア 日常的な話題について、使用される語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。 イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができるようにする。 (2) 話すこと[発表] ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。 イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。 (3) 書くこと ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。 イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
『Vision Quest English Logic and Expression I』（桐原書店）	『英作基本文例 600』（啓隆社）

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習する態度
評価の観点	英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。	英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	a. 授業や課題に取り組む姿勢 b. パフォーマンステスト c. 課題、ノート等の提出 d. 小テスト・各レッスンの評価問題・定期考査		
★	探究力	思考力・コミュニケーション力	実行力・俯瞰力

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学習内容等	主な考査
1 学期	4 5 6 7	Lesson 1 I want to introduce my new friend. Lesson 2 Do you want to join our show? Lesson 3 I'm planning a day trip this weekend. Lesson 4 Have you ever tried it before?	学びの基礎診断 第2回実力考査(中間考査) 1学期末考査
2 学期	9 10 11 12	Lesson 5 What do you want to do after high school? Lesson 6 Did you hear about the new shop? Lesson 7 I'm happy to have you with us. Lesson 8 What sport do you like playing?	第3回実力考査 2学期中間考査 学びの基礎診断 2学期末考査
3 学期	1 2 3	Lesson 9 Digital media has come a long way. Lesson 10 That's why I decided to go back. Lesson 11 Which do you prefer, cheaper beans or more expensive ones? Lesson 12 I think it's a good idea.	第5回実力考査 学年末考査

- ・英語学習法（自学自習の体制）を確立する。
- ・毎日、最低1～2時間程度の学習時間を確保し、可能な限り多くの英文を読んだり、聞いたりする。
- ・最初から辞書を使うのではなく、まず読む、聞く。その後、確認のために辞書を引く。
- ・授業で疑問点を解決し、授業後に復習・習得。

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	家庭基礎	学 年	1 年	単位数	2 単位
学習の到達目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。				

【使用教材】

教科書・副教材
東京書籍『家庭基礎 ～自立・共生・創造～』 東京書籍『家庭基礎学習ノート 自立・共生・創造』 他

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習する態度
評価の観点	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。
評価方法	・授業や課題・実習に取り組む姿勢 ・製作物や課題レポート、ワークシート、学習ノート等の提出物 ・定期考査（年3回）、実技テスト（被服分野・食物分野・保育分野）		
★	探求力, 健康増進力	思考力, 実行力, 俯瞰力	コミュニケーション力, 社会貢献, 多様な個性を尊重する態度, 自己肯定感

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学 習 内 容 等	主な評価内容	
1 学 期	4	オリエンテーション		・忘れ物をしない。 ・提出期限を守る。 ・製作物は必ず提出する。 ・実技テストで包丁使いや手縫いの技術を見ます。日頃から包丁や針を持つ機会を作りましょう。 ・ニュースを視聴する習慣を持ち、社会の動きに興味・関心を持ちましょう。
	5	第1章 生涯を見通す		
	6	第2章 人生をつくる		
	7	第7章 衣生活をつくる	実技試験（被服） 期末考査	
2 学 期		第3章 子どもと共に育つ ホームプロジェクト	ホームプロジェクト 実技試験（保育）	
	9			
	10	第6章 食生活をつくる ＜調理実習3回＞	実技試験（食物） 期末考査	
	11	第4章 超高齢社会を共に生きる		
3 学 期	12	第5章 共に生き、共に支える		
	1	第9章 経済生活を営む		
	2	第8章 住生活をつくる	学年末考査	
	3	第10章 持続可能な生活を営む		
		第11章 これからの生活を創造する	※毎時間のワークシート、单元ごとの振り返りシート	

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	情報 I	学 年	1 年	単位数	2 単位
学習の到達目標	(1) 効果的なコミュニケーションの実現，コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに，情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに，情報社会に主体的に参画する態度を養う。				

【使用教材】

教科書・副教材
数研出版『高等学校 情報 I』 数研出版『高等学校 情報 I サポートノート』 他

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習する態度
評価の観点	効果的なコミュニケーションの実現，コンピュータやデータの活用について理解し，技能を身に付けているとともに，情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら，問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し，自ら評価し改善しようとしている。
評価方法	授業や課題・実習に取り組む姿勢 課題・提出物の内容 定期考査(年3回)		
★	探求力・コミュニケーション力	探求力・思考力・実行力	探求力・思考力・実行力・俯瞰力

【学習内容】

学期	月	学習内容等
1 学期	4	第1編 情報社会の問題解決 第1章 情報とメディア 第2章 情報社会における法とセキュリティ
	5	第2編 コミュニケーションと情報デザイン 第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴
	6	第3章 情報デザイン 第4章 プレゼンテーション(PowerPoint)
	7	第3編 コンピュータとプログラミング
2 学期	9	第1章 コンピュータのしくみ
	10	第2章 プログラミング
	11	第3章 モデル化とシミュレーション
	12	
3 学期	1	第2編 コミュニケーションと情報デザイン
	2	第1章 情報のデジタル表現
		第4編 情報通信ネットワークとデータの活用
	3	第2章 データベース(EXCEL) 第3章 データの分析 第1章 ネットワークのしくみ

※各単元の学習内容や評価の詳細については，後日示します。